

小平市みどりの基本計画検討委員会 第四回 会議要録

開催日時

平成 21 年 10 月 19 日(月曜)午後 7 時 00 分～午後 9 時 05 分

開催場所

小平市役所 6 階 600 会議室

出席者

金子委員長、山田副委員長、荒木委員、菊地委員、鈴木委員、竹内委員、野口委員、原田委員、前田委員、和智委員 10 名

(事務局)2 名

(支援業者:株式会社 環境・グリーンエンジニア) 2 名

(傍聴者 なし)

会議次第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 小平市みどりの基本計画(改定案) 重点施策の検討
 - (2) その他
- 4 閉会

配布資料

1. 議事次第・委員名簿
2. 資料-1 重点施策の検討資料
3. 資料-2 第三回小平市みどりの基本計画検討委員会要録
4. 参考資料 みどり施策実施状況(平成 20 年度末現在)
5. 参考資料 小平市みどりの基本計画(改定案) 目次構成例
6. 参考資料 小平市みどりの基本計画(改定案) 追加となる章(素稿)

<議事>

1. 小平市みどりの基本計画(改定案) 重点施策の検討

事務局

本日の配布資料は、事務局案としてご提示するもので、確定したものではありません。また、来月上旬には、みどりに関わる担当課による庁内調整会議を予定している。

皆さまからのご意見を頂いた上で、事務局及び市内部で検討を行い、調整した結果を次回の委員会でご提示する予定である。

(事務局による資料説明)

委員長

資料は前回の資料をもとに、各委員の意見などを踏まえて再作成したものである。資料説明を受けてのご意見や、みどりの基本計画に期待すること、みどりのまちづくりについて日頃思っていることなどを含めて、委員の皆さまの自由な発言をお願いしたい。

委員

今回の基本計画は良くできていると思う。しかし、現在の体制で、重点事業としてあげられた項目を全て消化できるのか疑問である。もう少し整理して、より重要度の高い項目について力を注いでどうか。ポイントとなる点を強調して表現することは、外部に向けてのPRともなる。

実際に事業を運用していくのは職員である。専門的な知識を有する職員が少ないことから、アドバイザーとして園芸等の専門知識や、豊富な経験を有する人材の確保が望まれる。たとえば草刈などでも、機械でいっせいに草刈するのではなく、時期を考えてアゲハチョウの食草を残す管理のしかたなど、きめ細やかな対応ができる。

委員

重点事業として、多岐にわたる26項目があげられている。これだけの事業を全て行うのは難しい。ポイントを絞って重点的に行ってはどうか。

かつてはみどり豊かであった青梅街道の樹木は、落ち葉の問題などがあり、かなりが伐採されている。みどりを増やすことには、反面、落ち葉の問題を引き起こすなど、市民が受け入れられなくなる状況が生じることもある。

市をめぐるグリーンロード、そして、あかしあ通り、府中街道を核としてネットワーク

を形成する計画はたいへん良いことだと思う。

市内にはみどりの活動を行っている団体が多くある。資料にあるように、これらの組織を活用し、横断的にまとまって活動を進めていくことが必要であろう。

委員

資料-1の6ページにある、重点施策提示項目の構成によると、「1. 水とみどりのネットワークの形成」、「2. 歴史を語るみどりの保全」、「3. 小平らしいみどりの創出」にある項目までが行政が主体となって行う事業であると考えられる。

「4. 小平らしいみどりの育成」では、専門家の力を借りたみどりの管理等についての方法論を確立すること、「5. みどりのサポートシステムの確立」は、市民が参加して小平のみどりをサポートすることを示している。「4. 小平らしいみどりの育成」で小平市が目指すところをつくり、「5. みどりのサポートシステムの確立」で素敵な小平を作っていきたい。

小平のみどりの中で憩い、小平の鳥や、虫、花などに親しんだり、花壇を作ったり、清掃を行うなど、多くの市民が小平のみどりのまちづくりに参加することが、最終的には小平の市民が小平のみどりを守っていくことになる。

学校にある大きな木は、近隣の住宅開発などにより、伐採を余儀なくされる例が多い。

学校の森づくりやビオトープは、子ども達が自由に作業をしたり、出入りできるようにすると良い。学校のフェンス沿いに花壇を作っていたいただければ、学校活動の一環として花を植えることはできると思う。それぞれ、関わる市民が楽しくなるような計画をお願いしたい。

委員

今回の資料にある重点事業が全て実現されたら素晴らしいと思う。子ども達も含めた市民の意識啓発が大切であると感じており、この中では、特に学校の森づくり事業に期待している。学校だけでなく、子どもが集まる他の公共施設などでも出来たらよいと思う。中学生からは参加が少なくなるが、小さいうちから意識を高めていきたい。

以前、大きな公園を新たに作ってほしいという提案があったが、今ある資源であるグリーンロードを活用した水とみどりのネットワークの形成を図るということは、別の見方をすると、市全体を1つの大きな公園と見なすことができるのではないかと。資料にあるように、人にも動植物にもやさしいみどりづくりを目指したい。

森造り事業について、もう少し詳しく教えて頂きたい。また、13ページにある武蔵野らしさを活かした緑化とは具体的にどのようなものか。

事務局

学校の森づくりは、学校の敷地に接して雑木林に類するものをつくり、市民の憩いの場と、学校の環境教育の場を兼ねることが出来るスペースをイメージしている。学

校と樹林公園の垣根を外して、雑木林の管理が体験できるような場所を考えている。

武蔵野らしさについては、小平市はもともと水が少ない地域であり、たとえば「水」によらないビオトープなどが考えられる。落ち葉のリサイクルなども利用した森林型のビオトープを考えていきたい。

委員

学校の森づくりや、ビオトープについては、維持管理の手法を含めて考えてほしい。

今の子ども達は屋敷森を知らない。子ども達が理解できる仕組みを作って頂きたい。

委員

みどりの保全を考える場合、小平では農地の保全を抜きには考えられないが、これには、市だけではなく、国レベルでの対応が求められる。歴史を語るみどりとして農地の保全を検討するにあたり、多くのみどりが一般の市民の方の努力のもとに保持されていることを心に置きながら考える必要がある。

学校の緑化推進の中で、みどりのカーテンが実施されているが、中学生の子どもに聞くと評判が良くない現状がある。

学校を活用することは大変有効であるが、学校の先生方とはとにかく忙しく、先生方に新しいことを行うようお願いするのは大変厳しいと思う。

委員

学校の先生方には、みどりについての専門知識がないと考えたほうが良い。そのうえで、どのようにしていけばよいのか考えてほしい。

委員

あかしあ通りや府中街道の緑化ではどのような樹木を植えるのか興味がある。

公園には、高齢者の方が利用できる健康遊具が設置できればよいと思う。

今はひとつしかない野鳥公園を増やしてほしい。

遊休農地の家庭菜園としての利用が増えればよいと思う。

事務局

野鳥公園については増やしていきたいと考えている。グリーンロード沿いに野鳥の好む樹木を植栽して野鳥を呼び込むことを考えている。また、健康遊具については、現在2公園で設置しているが、今後さらに増やしていきたい。農地については郷土景観の保全の制度化など側面支援的な観点で計画に盛り込んでいる。

委員長

いわゆる遊具などの施設がある公園だけではなく、健康づくりに配慮した公園や、みどりが充実した公園など、特色を持たせた公園がいろいろあっても良いであろう。

委員

重点施策についての検討資料は、これまでに議論された意見が反映されている。重点施策のねらいと、重点事業案を具体的に提示したことで、提案意図が明確になった。また、実施予定時期を入れたことは評価できる。

目標の実現のためには、市民の意識啓発が必須である。

計画があまりに現実的では夢がない。画餅(絵に描いた餅)とまでは行かなくとも、多少は夢のあるものを示すことも必要だ。

環境保全やみどりの効用に関する記述が少ない。地球環境問題への対応や、小平ならではの雑木林の効用など、もっと述べてほしい。

みどりの保全、創出、環境保全には、行政と市民の連携や協働、市民参加によるボランティアに頼るだけでなく、連帯責任として追うべき未来への人間事業であると理解している。計画の中では、「連携」よりも強い表現である、市民と行政の「連帯」や一体感を打ち出すことも必要と考える。

用水路の活用整備は親水整備だけでなく、一定の継続的な水量と流水域の拡張延伸が望まれる。また、流水の確保が難しい区間は、水がなくても生かすことが必要であり、用水敷を緑道のように整備して「新たからみち」として活用することが考えられる。

公園のリニューアルや整備では、小平らしさを示すためにも、脱遊具を図って、暫時植樹に切り替えていただきたい。「小平らしさ」を「小平にふさわしい」個性を出していくことと捉えれば、バリアフリーは別としてユニバーサルデザインへの配慮は不要であろう。画一化は「らしさ」にふさわしくない。公園等は植栽による樹林化で、樹種の変化により変化を表現するものが望まれる。武蔵野らしさを打ち出すには、落葉樹からなる雑木の植栽がふさわしい。

野火止用水と玉川上水について都と小平市の連帯を掲げて頂きたい。

たとえば、ボランティアの養成講座と資格制度を設けて、市民の専門家を養成してみどりをサポートする仕組みをつくってはどうか。

計画の中に、平面図だけでなくパース的な表現があると、市民にも分かりやすいと思う。

小平らしさには、「水」というキーワードが大切であろう。

委員長

分かりやすい表現については、次回、ある程度まとまったものが提示される予定なので、そのような視点も加味して事務局では検討してもらいたい。市民の持ってい

る力を発掘して育成していくことは重要である。また、「らしさ」について、いろいろと考えられる。小平らしいみどりの育成の中に、水というキーワードが大切であるとのことであり、水をどのように計画に取り込むか、計画で扱うのかについても検討してほしい。

委員

今回の資料は、担当課の本気の姿勢がうかがわれる資料だ。さらに良くするには、二酸化炭素をはじめとした環境問題にももう少し言及すると良いであろう。

実現可能な計画とする姿勢がうかがわれるものの、実際の実行にあたっては行政の強力な指導体制の確立と推進が必要であろう。定期的な会議を開催し、進行管理をきちんとすることが望ましい。

既存の条例や各種制度が多くあるが、これらが現在の社会情勢と乖離している場合は足かせとなりかねないので、必要な制度改正などを進めてほしい。

重点施策の実行が難しいとの意見が多い。もう少しゆとりを持たせても良いであろう。各種事業にどのように市民がかかわるのか、市の関連団体などが想定できるのであれば市民との共同責任体制を構築することも有効であろう。

重点事業に反映してもらいたい事項として、グリーンロード緑化推進、意識啓発プロジェクトチームの創設を考えてほしい。

委員

基本計画に具体的な施策が組み込まれるのは、小平市としては珍しいのではないのか。具体的なプロジェクトを進めるのに有効であろう。

市の中心にある青梅街道について、事業のウェイトを少し厚くすると良いであろう。

小平らしさについての哲学が少し薄いような気がする。小平市全体の環境を維持するには、水と雑木林、環境が大切である。小平市の問題を解決するには雑木林を良くすることで解決できることが多い。10年先には林はあっても雑木林がなくなると危惧している。五感で快適だと感じることでできる林を維持していく、自然を扱う哲学が必要だ。雑木林は民有地にあることから、その保全について確実な手法を考えてほしい。

雑木林のサポーターは高齢者が多くなっている。平均68歳という例もある。若い人たちの市民の取り込みを重視したサポートシステムの確立をお願いしたい。

委員

生産緑地をはじめとした農地に多くを期待することは実際には難しい。市単独では難しいことから、国の制度に期待したい。

委員

農家と一般の市民が協働した菜の花プロジェクトなどの活動が始まっている。市民とJAのどちらにも理解を求めて、どちらからも農地へアプローチできるようなこと考えてほしい。

小平グリーンロードは他市と接している。小平らしさを生かすには、他市との連携が必要であり、環境を中心にした隣接市との連携も考えなくてはいけない。

委員長

小平市にとって農地は小平らしさの源泉のひとつであり、大切であるとの意識を持って、市民とともに考えていくことが必要であろう。事務局は、農地の扱いについて検討してほしい。

次回の委員会では、これまでの議論を踏まえて、事務局が作成したみどりの基本計画全体の提示を予定したい。

6.その他

次回委員会は12月17日(木曜日)を予定する。

以上